学校力を向上させ、
一人一人の子どもに確かな学びを創る教育を進めています

湧別町立湧別小学校長　秋山　康則

本校は、町教委から湧別町型学校力向上事業の中心校に指定され（R２～R４年度）、ふるさとの未来を担う子どもたちに必要な資質・能力を育む次世代の学校づくり向けて、学校がチームとなって取組を進め、町内外に広く取組の成果を発信しています。

■「学校力の向上」４つのアプローチ

本校は、教職員一人一人が専門性や持ち味を発揮し、豊かなコミュニケーションとコラボレーションで学校全体の教育力を高めることができるよう、「授業改善」「人材育成」「組織力の向上」「学び合う職員風土」の４つを重点とし、学校経営を推進しています。

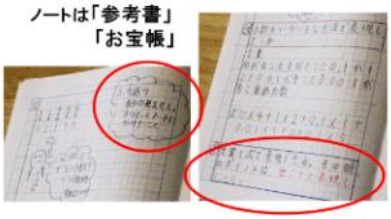
また、目指す子どもの姿を「一人一人が問いをもち続け、互いに学び合い、学びを自覚する姿」と設定し、「国語科の授業改善」「読書活動の推進」「自己肯定感の育成」を柱に、創意工夫した教育活動を展開しています。

■授業改善の取組

今年度の研修内容を「付けたい力」を明確にした国語科の授業づくりとし、全校で指導事項の重点化や授業方法の共有化を図るとともに、実践を校内外へ発信し、全町的な授業の改善充実を目指しています。

また、国語科の学習で身に付けた「言葉の力」を他領域、他教科、実生活の中で活用できるよう単元構成を工夫したり、読書活動と関連を図った学習を行ったりするなど、子どもが「言葉の力」を実感できるようにしています。

これらの学びを支えるため、学校が町の図書館と連携して読書環境の整備や地域人材の活用を進めるなど、地域とともに取り組む「チーム読書」を推進しています。



■人材育成の取組

初任者の割合が増えたことにより、即戦力に育てる必要性について全教職員で共通理解に立つとともに、初任者層へのメンター研修を、学校全体の人材育成につなげる取組を行っています。

取組の推進に当たっては、「北海道における教員育成指標」を踏まえ、ミドルリーダーの育成を将来の管理職候補へつなげることや、できる限り多くの教員がミニ研修の講師となり、自分の得意分野を発揮することにより経営参画へのモチベーションを高めることなど、教職員のキャリア・ステージや個別性に配慮しています。

また、今年度は令和５年度に新設する湧別地区義務教育学校開校に向け、小中連携の取組を強化しており、湧別小学校と湧別中学校の教職員が授業を参観し合って互いの専門性を取り入れるなど、９年間の学びを創ることができる人材の育成にも努めています。

■組織力向上の取組

教務主任に加え、主幹教諭相当のポジションとして２名の教諭に学校力向上をコーディネートする役割を与え、学校全体を俯瞰するように働きかけるなど、リーダーシップチームを強化し、組織マネジメントの質のシフトアップを図っています。

また、校務運営会議（学校力向上委員会）において、管理職とコーディネーターが課題と方策を共有し、特別委員会等の組織の起点とするようにしています。これにより、コーディネーターと学年チーム・分掌チームとの（Ｐ）つながり、（Ｄ）動き、（Ｃ）成果、（Ａ）改善の一歩を見取り、マネジメントすることが可能となっています。

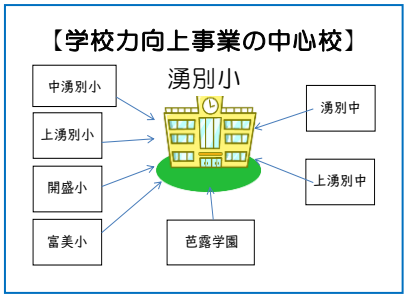
さらに、年２回の学校評価を最重点に絞って確実なＰＤＣＡサイクルを回し、教育活動の質の向上を図ることや、学校運営協議会（湧別中学校と合同）を充実させ、保護者や地域との連携・協働を進めることで、グランドデザインについての共通理解を図るとともに、地域ぐるみで子どもの資質・能力を育成できるようカリキュラム・マネジメントの質のシフトアップを図っています。

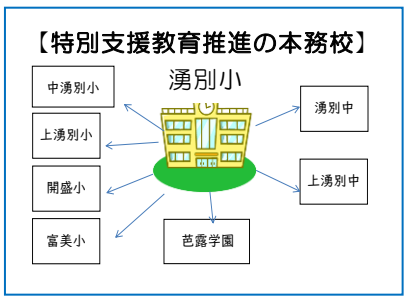
■学び合う職員風土の醸成

まず、管理職が率先して子どもの努力や成長、教職員の実践のよさや成果などについて見取り、学校内外で話題にする雰囲気づくりに努めています。

また、校内では、いつでも、どこでも、だれとでも学び合ったり、授業を見合ったり、相談し合ったりできるよう、温かな人間関係づくりに配慮しています。

さらに、本校では、オホーツク教育局や教育委員会、研究団体が行うオンライン研修を学校全体で受講したり、各種研修会の講師として本校職員を積極的に派遣したりするなど、開かれた授業研究に努めています。





本校は、湧別町型学校力向上事業の中心校に加え、全小中学校を対象とする巡回型通級指導の本務校であり、町内のセンター的な機能を果たす役割を担っています。

そのため、常に自校の現状把握に努め、取組の改善充実を図るとともに、町内全体へ実効性のある実践やその成果を発信していけるよう取組を進めています。

今後も、地域や保護者と絆を結び合い、教職員の英知と努力を結集し、子どもに必要な資質・能力を育むための学びを創出できる魅力あふれる学校づくりに努めてまいります。